

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート（年度末）

学校名（三重県立伊勢まなび高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が安心して楽しく学べる学校 ○生徒が学びたい内容を自分のペースに合わせて学べる学校 ○生徒が社会に出て自立できる力を身につけられる学校 	
(2)	育みたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○生き生きと楽しく学校生活を送ることができている生徒 ○自ら将来や進路を考え、社会に出て自立できる力や社会生活の基盤となる確かな学力を身につけている生徒
	ありたい教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒のまなびに向かう姿勢を尊重し、すべての生徒がまなびに取り組むための環境を整え、学習意欲を引き出す授業の工夫・改善に努めている教職員 ○通級による指導に必要な知識・スキルを身につけ、生徒一人ひとりの特性や実態に応じた適切な指導・支援を行うことができる教職員 ○キャリア教育の重要性を理解し、生徒が学ぶことと将来とのつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身につけることができるよう、適切な指導・支援を行うことができる教職員 ○信頼される学校・教職員であるため、教育に携わる者としての自覚と規範意識を持ち、生徒への深い愛情に基づく教育を実践するとともに、同僚と協働することができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉適切な友人関係の構築、自分の居場所の確保、わかりやすい授業、資格取得、卒業及び希望進路の実現</p> <p>〈保護者〉基本的な生活習慣の確立、学校生活の充実、希望進路の実現、家庭との密接な連携</p> <p>〈中学校〉不登校等の多様な課題を持つ生徒の受け入れ</p> <p>〈地域〉生徒の規範意識の向上、生涯教育の場の提供</p> <p>〈就労・進学先〉挨拶等の社会性の育成、コミュニケーション能力の向上、基礎学力の定着、資格取得</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者、中学校、地域、就労・進学先〉同上</p> <p>〈スクールカウンセラー・特別支援教育関係者・行政等生徒支援関係者〉生徒の居場所の確保、生徒一人ひとりの特質を踏まえた対応</p>	<p>〈保護者〉基本的な生活習慣の確立、日常生活に関する情報提供</p> <p>〈中学校〉学校生活に関する情報提供、生徒に対する連携したかかわり</p> <p>〈スクールカウンセラー・特別支援教育関係者・行政等生徒支援関係者〉専門分野における生徒への直接的な、教職員への間接的な支援</p> <p>〈地域〉外部教育力としての専門的な知識・技能の提供、生徒の見守り</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ○授業について、アンケートで「興味・関心」「内容理解」「満足度」が低下している理由を検証し、課題の改善にこれまで以上に取り組んでほしい。また、学校行事の参加率も低下しているが、行事の内容を見直すなど、生徒が参加したいと思う雰囲気づくりをしてほしい。 ○TTについて、生徒一人ひとりに対する学校の支援の姿勢がよく表れており、教員の負担は大きくなるが、継続するとともに可能なら上の学年にも拡大してほしい。 ○ICTの活用について、講師も含めて使いこなす力を身につけ、わかりやすい授業を実践してほしいが、教員が機器の操作に注力するあまり、生徒の把握や授業規律の確保がおろそかにならないようにしてほしい。保護者負担が大きい一人一台の学習端末については、積極的に授業の中で使う機会を設けてほしい。 ○通級による指導について、生徒の特性に応じた丁寧できめ細かな指導、支援が実施されている。今後も、企業等の外部教育力の活用や、保護者、関係機関と連携を図りながら、生徒の個々の課題に取り組むとともに、コミュニケーション能力や社会的自立に必要な基本的スキルの向上を図る支援などを通して、早期からのキャリア教育の充実に取り組んでもらいたい。 ○教育相談やスクールカウンセラーについて、具体的な記載がないが、中学校時代には学校に行きづらかった生徒も来ていることから、その対応等について活動指標に取り入れてほしい。 ○働きやすい職場環境づくりについて、指標をほぼ達成している。現在の環境を継続し、より良い学校づくりをお願いしたい。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTの活用を核に、授業規律の確保・徹底も含め、「わかりやすい」授業の構築（授業改善）を推進し、生徒の学習意欲をさらに引き出す授業づくりに取り組む必要がある。また、指導と評価を一体化し、カリキュラム・マネジメントの充実に取り組む必要がある。 ○特別な支援・配慮を必要とする多様な生徒、特に、コミュニケーション能力や社会的自立に必要な基本的スキルに課題のある生徒が数多く入学していることから、個の課題をふまえたきめ細かな対応の充実に取り組む必要がある。また、通級による指導について、生徒の課題の改善に繋がるよう、環境整備や教職員のスキルアップ等、円滑で効果的な指導の確立に取り組む必要がある。
	学 校 運 営 等	<ul style="list-style-type: none"> ○信頼される学校・教職員であるため、教職員一人ひとりがコンプライアンスを遵守するとともに、三部制で複雑な勤務体系ではあるが、学校全体で風通しのよい活力ある組織づくりに取り組む必要がある。 ○体罰やわいせつ行為、ハラスメント等の不祥事の根絶及び未然防止に組織的に取り組む必要がある。 ○生徒数の減少に対応するため、普通科（午前・午後の部）の特色化やものづくり工学科（夜間部）の魅力化等を推進する必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出すため、「わかりやすい授業」の構築（授業改善）を推進する。特に ICT の活用により、生徒が主体的に取り組める授業の構築を目指すとともに、基礎学力のさらなる定着を図る。 ○生徒の多様な実態をふまえ、特別支援教育やキャリア教育等の効果的な生徒支援を推進する。特に、教職員間で生徒に関する情報を丁寧に共有したうえで、あらゆる機会をとらえて生徒の自己肯定感や社会的自立に必要なコミュニケーション能力の育成を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、また、特別支援教育のさらなる充実を図るため、授業改善や ICT の活用、新学習指導要領への適切な対応、通級による指導のあり方の研究等により、教職員の資質向上を推進する。 ○会議時間の短縮や変形労働時間制の活用等により、総勤務時間を縮減し、働きやすい環境の整備を推進する。 ○信頼される学校・教職員であるため、教職員一人ひとりが生徒に対する深い愛情と教育に対する使命感・責任感を持ち、生徒と向き合いながら日々の教育活動を行うことができるよう、コンプライアンスを遵守するとともに、風通しの良い活力ある組織づくりを推進する。

4 本年度の行動計画と評価

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の定着（学習指導の充実）	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒のまなびに向かう姿勢を尊重し、すべての生徒がまなびに取り組むための環境を整える。 ○ICTの活用を推進し、「わかりやすい」授業を構築（授業改善）することにより、生徒の学習意欲の向上を図る。 【活動指標】 ○学校生活（授業評価）に関する生徒アンケートの実施が年1回以上 ○ICTを活用した授業の実践が教職員1人当たり学期に1回以上 【成果指標】 ○「授業に対する興味・関心」「内容理解」「満足度」の高い割合が90%以上 	<p>【活動指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT利用に関するアンケートでは、ICTを活用した授業を実施した教員が76%（前年度比-3）であった。 【成果指標について】 ○授業に関するアンケートでは「興味・関心」が83.6%（前年度比+4.8）、「内容理解」が91.4%（同+5.5）、「満足度」が88.7%（同+2.4）であった。 【その他について】 ○特にITや通級等により、個に応じたきめ細かな支援ができた。 	<p>※</p> <p>◎</p>
個に応じた生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> ○通級による指導をはじめとする特別支援教育を推進し、コミュニケーション能力や社会的自立に必要な基本的スキルの向上を図る。 ○生徒指導、命を大切にする教育やいじめを許さない教育、人権教育、生徒会行事等を推進し、生命尊重の精神や自己肯定感の育成、人間関係の構築（仲間づくり）を図る。 ○教育相談や保健指導、図書館教育等を推進し、心身の豊かな成長を図る。 【活動指標】 ○面談週間や声かけ週間等の生徒支援を重点的に行う機会の設定が年6回以上 	<p>【活動指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○面談週間・教育相談週間は年3回実施。声かけ週間は年5回実施。 【成果指標について】 ○声かけ週間では、約72%（前年度比+2）の生徒が自ら挨拶ができ、教員からの声替えを含めると約86%（同+3）の生徒が挨拶できた。 ○行事等への生徒の満足度等につ 	<p>◎</p> <p>※</p>

	<p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら挨拶できる生徒の割合が 70%以上 ○各行事への参加率及び満足度が高い生徒の割合が 90%以上 ○30 日以上欠席した生徒のうち、養護教諭、スクールカウンセラー、相談員等による専門的な指導・相談を受けた割合が 30%以上 	<p>いては次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 人権を考える集い、人と人とのきずなを作る集いでは、「理解度」「満足度」とともに90%以上（前年度と同）であった。 * 文化祭では参加率が81%（前年度比+3）、満足度が92%（同+6）であった。 * 体育祭は悪天候のため実施できなかった。 * 読書週間に関するアンケート（6・10月）では、充足回答が78%（前年度比-8）と86%（前年度と同）であった。 ○30日以上欠席した生徒のうち専門的な指導・相談を受けた割合は28%であった。 <p>【その他について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己の振り返り、課題への取組、個別面談を基本とした「通級による指導」を実施することで、人との関わり方に必要なコミュニケーションスキルの定着につながった。また、特別支援学校やサポステ等と連携した授業も展開し、卒業後に必要な社会的スキルを向上できた。 	
<p>キャリア教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導を中心とする教育活動全体によるキャリア教育を推進し、自らの進路や生き方を主体的に考える力の育成を図る。 ○早期からの就労・就職支援、また、ものづくり工学科の専門性を生かした職業教育を推進し、生徒一人ひとりの適性に応じた進路実現を図る。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路だよりの発行及び進路講話の開催が年3回以上 ○アルバイトやインターンシップ等の就労経験を随時奨励・創出 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就労経験がある生徒の割合が前年度以上 	<p>【活動指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路だよりを年3回発行した。 ○進路行事は年3回開催できた。 ○掲示板を活用し、アルバイト・インターンシップの紹介をした。 <p>【成果指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アルバイト等の就労率は、43.8%（前年度比-5）であった。 <p>【その他について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ものづくり工学科では、実習を通じて働く心構え等を身につけられるよう、挨拶の励行、安全作業のための作業服着用の徹底、実習内容の理解と安全作業の確認、作業終了時の片付けや清掃の励行に努め、習慣化して行うことができるよう指導した。 	※
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ○授業規律の徹底・確保を含め、すべての生徒がまなびに取り組むための環境を整えられるよう努めた結果、文化祭の参加率及び満足度が向上したと考えられる。体育祭は実施できるよう、時期や形態を含め検討が必要。 ○ICT については教員や教科の取組に偏りがあるものの、全体として活用の頻度は向上している。授業改善と特別支援教育の推進の観点から、ICT の平準化した活用及び授業のUD化が不可欠である。 ○読書週間の充足回答については、6月は生徒への周知が不十分であったことも原因の一つとして考えられる。周知の方法や内容について検討が必要。 ○通級等の特別支援教育では、キャリア教育の観点も含め、外部機関との協力・連携や外部教育力の活用を進め、個に応じた支援を実施することができた。 ○アルバイト等の就労率の低下については、インターンシップ等を含めて就労経験を積むことができるよう働きかけ 			

の方法等の工夫が必要。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の基礎学力の定着を図ることができるよう、ICTの活用に係る自己研鑽に努め、「わかりやすい」授業を構築（授業改善）する。 ○通級による指導をはじめとする特別支援教育、また、その他の教育等に係る自己研鑽に努め、個に応じた生徒支援を図る。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○通級関係者会議や現職教育等の校内研修機会の設定が年10回以上、また、校内外の研修機会への参加が教職員1人当たり年1回以上 ○ICTを活用した授業の実践が教職員1人当たり学期に1回以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業改善や各種教育に係る資質が向上したと考える教職員の割合が前年度以上 	<p>【活動指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT利用に関するアンケートについては、4（1）教育活動・基礎学力の定着（学習指導の充実）を参照 ○ICTの活用については、教務部担当者やGIGAスクールサポーターによる研修を複数回実施した。 ○通級関係者会議を2回、特別支援教育に関する現職教育を1回行った。 ○教職員が「通級による指導」に随時参加することで、校内の特別支援教育の理解を図った。 <p>【成果指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業改善など教育に係る資質が向上したと考える教職員が94% 	<p>※◎</p> <p>※◎</p>
信頼される学校・教職員であるための行動	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員一人ひとりが不祥事を自分事としてとらえ、その根絶に率先して取り組み、公教育への信頼の回復・向上を図る。 ○教職員一人ひとりが生き生きと活躍できる（チームワークの向上と意欲の増進が可能な）職場環境を整備するとともに、保護者・地域住民・関係諸機関等と連携し、信頼される組織の構築（学校づくり）を図る。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校信頼向上委員会の開催が年3回以上、また、コンプライアンスを遵守するための研修等の機会が年6回（各学期2回）以上 ○教職員満足度アンケートの実施が年1回以上、また、管理職との対話が教職員1人当たり年3回以上 ○保護者や中学校等へ随時情報共有、また、特長ある取組についての中学校や報道機関等へ適時情報提供 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ストレスチェック集団分析結果の当該部署の「ストレスチェック平均点数」「健康リスク」が前年度以上 	<p>【活動指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンスミーティングは、勤務の異なる職員同士が小グループで話し合うことができる方法で行い、その内容を校内で共有するよう改善し、2回実施した。また、職員打合せ等で県内の不祥事等の情報を随時共有した。 ○学校信頼向上委員会は3回実施し、管理職と教職員との対話は、全員と少なくとも4回実施する機会を設けた。 ○入学希望者の増加に向けた取組としては、教頭が中学校を訪問し、特長ある取組等についての情報共有を行った。 <p>【成果指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ストレスチェック平均点数」は、前年度と比べて仕事の「量的負担・コントロール度」は、ほとんど変化なし。「上司・同僚のサポート」については、ともに少しストレスが低下している。 ○「健康リスク」は、昨年度と比べて6ポイント低下した。 ○いずれの項目も、全国平均と比較すると良好な傾向にある。 	<p>※◎</p>
働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○業務の見直しや削減等の勤務管理を推進し、総勤務時間の縮減を図る。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○設定した日の定時に退校できた教職員の割合が95%以上 ○予定通り（週1回以上の）休養日を実施できた部活動の割合が100% ○放課後等に開催して60分以内に終了した会議の割合が100% <p>【成果指標】</p>	<p>【活動指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定時退校日に定時に退校できた教職員の割合95%（12月末現在） ○部活動休養日を設定した日に休養できた割合100%（12月末現在） ○放課後等に開催して60分以内に終了した会議の割合が92% <p>【成果指標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年360時間を超える時間外労働者数：0人（12月末現在） 	<p>※</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○年 360 時間を超える時間外労働者数が 0 人 ○ひと月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数が 0 人 ○ひとり当たりの月平均時間外労働が 3.5 時間以下 ○ひとり当たりの年間休暇取得日数が 15 日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひと月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数：1 人(12 月末現在) ○ひとり当たりの月平均時間外労働：2.6 時間(12 月末現在) ○ひとり当たりの年間休暇取得日数：16.8 日 4 時間 15 分
--	---	---

改善課題

- ICT については、教科や教員によらず適宜活用ができるよう、具体的な活用方法や事例についての研修が必要。
- 信頼される学校・教職員であるため及び働きやすい職場環境にするため、現状を随時検証し、さらに取組を重ねていく。
- 通級関係者会議や校内研修については、規模等の設定が不十分であったため回数としては少なくなってしまったが、打ち合わせ規模のものを含めるとかなりの回数を実施している。今後も教員の資質向上につながるよう、明確に活動指標を設定し取り組んでいく。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○授業アンケートで指標がいずれも前年度より改善されている。授業規律の確保に取り組んだ成果であり、落ち着いた学習環境ができて理解が進んだものと推測する。 ○ICT の活用については、教員や教科によってまだまだ偏りがあるようである。GIGA スクールサポーター等の人材の積極的な活用、教員間で授業実践を相互に参観、中学校の授業を参考にするなど工夫が必要。学習端末を各授業で積極的に活用し、保護者にも情報発信することにより、保護者が高額なものを購入したことに失望感を抱かせないようにしていただきたい。 ○通級指導は本校の重要な教育活動であるので、全教職員が協力して指導に当たり、生徒が個々の課題に取り組み、コミュニケーション能力をつけ、社会的自立に必要な基本的スキルの向上を図る支援をしていただくようお願いしたい。 ○図書館教育については、読書週間アンケートのマイナスの部分をきちんと検証するとともに、図書館に生徒を呼び込むためにどのような取り組みをしたのか、その成果と課題を報告して欲しい。また、図書館には生徒が訪れてホッとできる環境を整えてほしい。 ○声かけ週間の挨拶ができた割合は多いととらえるのか、少ないととらえるのか。社会に出て自立するには挨拶が重要であると考え、今後の取組方等をさらに検討していただきたい。 ○体育祭を 5 月や 9 月開催など工夫し、種目もレクリエーションを取り入れて楽しく過ごせるようにして、学校の行事は面白いし楽しいと感じるようなイベントとして開催できるようにしてほしい。生徒会の役員たちにも企画や運営に参画させ、活躍の場を与えてやってほしい。 ○30 日以上欠席した生徒に対し、専門的な指導につなげた割合が 28%では低すぎると感じる。専門的な指導を受けたことにより効果があるなら、より一層取り組みを強めていてもらいたい。また、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーなどの専門スタッフにも対応してもらい、家庭状況や経済の不安、心の問題など多面的にサポートする方法を充実してほしい。 ○在校生のアンケートで、「授業に欠席することがある」など、注意しなければならない回答が多く出ている。担任や教科担当で気になる生徒がいれば情報を共有しあって生徒が学校を続けられるよう十分なサポートをお願いしたい。 ○本校の生徒は主な欠席理由に体調不良、やる気が出ない、PTSD もどき、精神的な問題、クラスがむりなどを挙げている。保健室はこれらの生徒を受け入れてサポートし、心の安定を取り戻すための努力されていることと思う。今後も保健室には図書館と同様に、教科や授業と関係なく、たわいないことを話しに来る生徒を受け入れていただきたい。 ○保健室や担任に相談に来た生徒にどう対応するか書かれていない。生徒の何気ない言葉から心身の悩み、家庭の問題、将来への不安などを聞き取り、相談に応じて、学校だけでは解決できない場合は、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーなどに話のできる機会を設けていただきたい。相談を受けたのが何人くらいで、専門家に聞いてもらったのが何人程度という結果を出すのも良いと思う。 ○ものづくり工学科での挨拶、作業服着用、片付け、清掃などの指導により、どのような結果であったのか、またその後の変化があれば知りたい。 ○早期からの就労・就職支援は行われているが、進路の決まらない生徒がいる。手厚いフォローを期待したい。
----------------------------	---

	<p>○活動指標では就労経験を奨励しているが、賃金・休暇・休憩・労災など、社会経験の少ない生徒たちの労働者の基本的な権利がアルバイトということで守られているか、進路指導部では生徒の実態や意見も聞いて適切な対応や指導をしてやってほしい。</p> <p>○職員ひとり当たりの月平均時間外労働日数は 2.6 時間であり、年間休暇取得日数は 16.8 日となっているので、働きやすい職場環境といえる。本校の先生方は効果的に教育活動に取り組んでおられ、保護者アンケートからも学校の指導に対する評価は高くなっている。これからも先生方が生き生きと働ける学校であってほしいと願っている。</p>
--	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>○安全・安心な学校づくりとして、いじめや差別を決して許さないよう生徒指導と人権教育のさらなる充実を図る。</p> <p>○わかりやすい授業の構築（授業改善）として、ICTの活用と授業のUD化を推進する。</p> <p>○行事については、特に体育祭については安定的に開催できる方法を検討し、内容を工夫するなどにより、生徒の自主的な活動の活性化を図る。</p> <p>○特別支援教育とキャリア教育の連携を強化し、個に応じた生徒支援を充実させる。</p>
学校運営についての改善策	<p>○教職員が授業改善や特別支援教育等に係る自己研鑽に努めることができるよう、校内における具体的な方法を構築していく。</p> <p>○信頼される学校・教職員であるため及び働きやすい職場環境にするため、現状を随時検証し、さらに取組を重ねていく。</p>